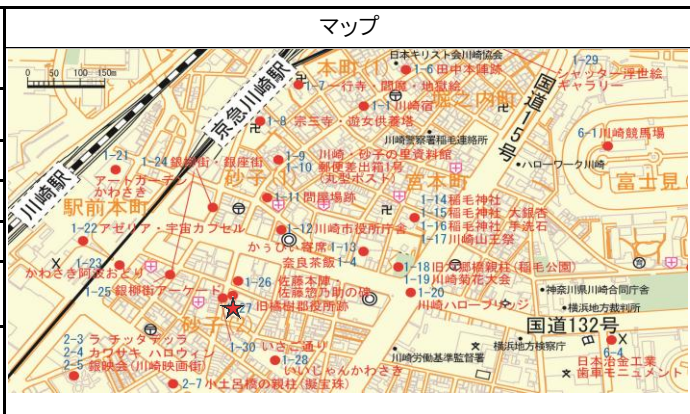


かわさき区の宝物シート

宝物No.	きゆうたちばなぐんやくしよあと		
1-26	旧橋樹郡役所跡		
エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前北	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		



所在地	川崎区砂子2-10
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩10分



基礎情報

- 明治維新の後、川崎市のほぼ全域と横浜市鶴見区・神奈川区などは「神奈川県橋樹郡」という行政区域に含まれていた。明治34年(1901)に神奈川町（現在の横浜市神奈川区）が横浜市に編入されると、大正2年(1913)に川崎宿の中心であった砂子（現在の川崎区砂子）に置いた。
- 平成16年(2004)3月、郡役所の川崎移転から90年、川崎市制80周年を記念して、「旧橋樹郡役所跡記念碑」が建立された。

由来・エピソード

- 明治11年(1878)、郡区町村編制法によって、神奈川町成仏寺（現横浜市神奈川区）に橋樹郡役所が設置され、橋樹郡内10町111村の行政を司った。その後郡制が施行されると、郡長のもと各地代表の郡会議員により、道路・治水・教育・産業などが議せられた。明治34年(1901)、神奈川町の横浜市編入により、橋樹郡の中心は産業開発著しい川崎町に移り、大正2年(1913)には川崎町砂子に威風堂々とした郡役所が建てられ、川崎・保土ヶ谷2町と17村の行政にあたった。郡南部の臨海埋立地には京浜工業地帯が形成され、人口増加による都市化が進む一方、北部農村地帯も私鉄の沿線開発や近郊農業の発達などにより大きく変貌した。
- 大正13年(1924)川崎に市政が施行され、大正15年(1926)に郡役所は廃止された。また、その後の川崎・横浜の市域拡張によって昭和13年(1938)には半世紀にわたり親しまれた「橋樹郡」の名は消えることになった。

補足・その他

- 橋樹郡を現在の行政区画でみると、概ね川崎市川崎区・幸区・中原区・高津区・宮前区・多摩区・麻生区の一部、横浜市鶴見区・神奈川区・港北区の一部・保土ヶ谷区の一部に相当する。
- 昭和13年(1938)10月に現・多摩区の稲田町、生田村と宮前区の向丘村、宮前村の川崎市への編入をもって橋樹郡は消滅した。

関連シート

